

2022年8月28日 午前礼拝
「偽りの神々」 説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】

Iヨハネ 5:19~21

- 19 私たちは神からの者であり、世全体は悪い者の支配下にあることを知っています。
20 しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。
21 子どもたちよ。偶像を警戒しなさい。

【説教要約】

今日で、Iヨハネを読み終えます。
特に今日は、最後の節の「偶像」について見たいと思います。

①心の偶像

Iヨハネがこのような終わり方をしていることには、少し唐突な印象を受けられるかもしれません。私も、最初に読んだ時は、「なぜ急に偶像の話？」と思いました。ここで言われていることは、一つ前の節で言った「イエス・キリストこそ、まことの神である」という真理の裏側なのです。イエス様がまことの神であるなら、それ以外は偽りの神々です。

「偶像」と聞くと仏像や神棚など、「宗教的な像」を思い浮かべるかもしれません。ならばイエス様を信じたクリスチャンが、偶像を拝まないことは簡単なことのように思えるでしょう。しかし、偶像の話はそう簡単なことではありません。なぜなら、神様が求めておられることは、「見えるものも見えないものも神にしない」ことだからです。

そもそも、見える偶像はどこから造られるのでしょうか。世界各地に、名前の付けられた偶像があり、神話があります。Iヨハネの書かれた時代は、ギリシャ神話の世界でした。美の神アフロディテ、戦争の神アレス、豊穡の神アルテミスなどです。その始まりは、心の中の欲望にあるのではないのでしょうか。

いつまでも美しくありたい。理想の美女と出会いたい。そこから美の神が。
他国に勝って、人々を支配し、もっと安全で良い地位に着きたい。そこから戦争の神が。
食べ物に困らず、ずっと安心して暮らせて豊かでありたい。そこから豊穡の神が。
偶像は元々、人の心の中にあります。欲望や願いが形となって出てくるのです。

パウロはこのように勧めました。

ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。
このようなことのために、神の怒りが下るのです。

コロサイ 3:5-6

イエス様はこの、貪欲について一つのたとえ話をされました。

そして人々に言われた。「どんな貪欲にも注意して、よく警戒しなさい。なぜなら、いくら豊かな人でも、その人のいのちは財産にあるのではないからです。」

それから人々にたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作であった。

そこで彼は、心の中でこう言いながら考えた。『どうしよう。作物をたくわえておく場所がない。』

そして言った。『どうしよう。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう。

そして、自分のたましいにこう言おう。「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。』

しかし神は彼に言われた。『愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。

そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』

自分のためにたくわえても、神の前に富まない者はこのとおりです。」

ルカ 12 : 15-21

ここに登場するお金持ちは、食べ物の中で心配し、不安でした。明日の食べ物がなければ不安を覚えるのは当たり前ですし、そのために収穫を増やそうとするのも分かります。彼の、何が問題なのでしょう。

彼は、食べ物によって人生の安心を得ようとしたのです。「食べ物が先の分まで十分あれば、自分は幸せになれて、安定した日々を過ごせる」と思ったのです。先ほど挙げたギリシャ神話の神々に、豊穰の神アルテミスがいました。彼の心は、アルテミスという名前は付いていないけれども、豊穰の神を偶像として持っていたのです。

神様は、食べ物に安心した彼に向かって、「愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる」と言われました。彼は、自分の人生が神様のものであることを分かっていたのです。どんなに良いものであっても、それは偶像に成り得るのです。

今は科学が進み、目に見える偶像を本当に信じている人は少ないと思います。しかし、偶像の数は昔と変わらず、むしろ増えているのではないのでしょうか。欲望が偶像を生み出すからです。

現代は、なりたい自分になることに価値が置かれる自己実現の時代です。物でも人でもお金でも、自分の欲しいものを手に入れて自分を満足させることが良いとされる時代です。しかし、欲しいものをいくら手に入れても、手に入れるために努力しても、結局それは偽りの神なので、心を満たすことも救うこともできません。

私たちはどうでしょうか。何を心配する傾向にあるのでしょうか。お金、孤独、社会的成功、人からの愛情。一番失いたくないものに、偶像が隠れているかもしれません。私たちが「それがあれば人生の安心を得られるはずだ」と信頼する相手、それが偶像なのです。

②

ザアカイという人は、イエス様と同じ時代に生きた人でした。

それからイエスは、エリコに入って、町をお通りになった。

ここには、ザアカイという人がいたが、彼は取税人のかしらで、金持ちであった。

ルカ 19：1-2

聖書の中心民族であるイスラエルは、この時ローマ帝国の占領下にありました。ローマは自国の経済の為に、植民地に重い税金を課していました。貧しいイスラエルで不自由なく暮らせたのは、支配者ローマ人とローマに協力して自分の国から税金を取り立てる取税人くらいでした。必要以上に税金を取る権利を取税人は持っていたのです。

自分の国から税金を巻き上げていたので、取税人は最も嫌われていた職業でした。しかも、このザアカイはただの取税人ではなく、取税人のかしらだったので。その地方で一番の金持ちで、権力もあった人でした。金のために名誉や仲間を捨てた男でした。

イエスは、ちょうどそこに来られて、上を見上げて彼に言われた。「ザアカイ。急いで降りて来なさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。」

ザアカイは、急いで降りて来て、そして大喜びでイエスを迎えた。

これを見て、みなは、「あの方は罪人のところに行つて客となられた」と言つてつぶやいた。

ルカ 19：5-7

取税人や遊女は、イスラエルの宗教熱心な人々に「罪人」と呼ばれ、特に見下されていました。「とても神に受け入れられるような生き方をしていない」と思われていたのです。そのような群衆でいっぱいの中、イエス様は他の誰でもなくザアカイに声をかけたのです。取税人のかしらだったので、罪人の中でも最悪の部類です。

しかしイエス様はこのザアカイと食事をしようとされたのです。食事は、当時の文化では「友情を結ぶ」意味があります。民衆は「罪人のところに行った」と誰もが不快感を覚えましたが、イエス様は他の誰でもなくザアカイのところに行きました。大喜びでザアカイはイエス様を迎えました。

ところがザアカイは立って、主に言った。「主よ。ご覧ください。私の財産の半分を貧しい人たちに施します。また、だれからでも、私がだまし取った物は、四倍にして返します。」イエスは、彼に言われた。「きょう、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから。

人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」

ルカ 19：8-10

律法には、収入の十分の一をささげるように書かれています。しかし、ザアカイは財産の半分を貧しい人に寄付することを自分から決めました。なぜか、わかりますか。イエス様が自分のような者のところに来てくださった恵みを受け取ったからです。今まで、お金を神にして埋めようとしていた部分が、イエス様によって埋まったからです。彼は誰に命じられるこ

ともなく、今までかき集めていた財産を手放せるようになったのです。彼の中で、イエス様が神になったのです。

もう一つは、だまし取った物についてです。ザアカイは富を築き上げるのにだまし取っていました。法外な額を要求された人も少なくありませんでした。

彼は、その聖なるものを犯した罪の償いをしなければならない。それにその五分之一を加えて、祭司にそれを渡さなければならない。祭司は、罪過のためのいけにえの雄羊で、彼のために贖いをしなければならない。その人は赦される。

レビ 5:16

律法には、盗みについて、五分の一つつまり 20%を利子として弁償するように定められています。しかし、ザアカイはもっと償いたかったのです。四倍ですから、実に 300%の利子です。これは恵みによってザアカイが赦されたからです。

もし、償いをしなければ赦されないのだとしたら、ザアカイはイエス様に「私はいくらお支払いしたら赦されるでしょうか」と言ったでしょう。しかし彼は、金に溺れ、人から金を巻き上げ、金のために故郷も仲間も地位も売った自分のような者に、イエス様が「ただで」心と心の関係を下さったことを理解したのです。

だから彼はその喜びのあまり、「私はどれくらい償えるだろうか」と自問したのです。イエス様が神になった途端、それまで神だったお金が地位を失いました。そしてお金は、良いことをするための道具、神様の栄光を現すための手段に変わったのです。

人は、福音を理解したときに、偽りの神を手放せるのです。

あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。

Ⅱコリント 8:9

イエス様はすべてをお造りになられた神です。すべての物を持ち、支配し、父なる神様との親密な関係を持っていました。しかし、天国での宝をすべて手放したのです。それは、他でもない私と、あなたを宝として手に入れるためです。自分がイエス様にとって宝であると自覚したとき、心の中の偶像は手放されていきます。もう、イエス様以外のものでも心を満たす必要がないからです。

自分の中に偶像があるかどうか確認する一つの方法は、生活の中で「どれだけイエス様だけで満足しているかどうか」ということです。ザアカイが、お金に執着し続けていた人生をイエス様によって変えられ、満たされたようになります。そこには、「イエス様を喜んでいる」という特徴があります。どれだけイエス様に心からあふれて感謝しているのでしょうか。

私自身は、このことで自分を顧みたときに、偶像があるんだなと思います。イエス様だけに満足していないシーンが生活の中にあるからです。偶像を心から取り除き、まことの神様だけに信頼すること。それがクリスチャンの歩みなのです。

あなたがたは、初めから聞いたことを、自分たちのうちにとどませなさい。もし初めから聞いたことがとどまっているなら、あなたがたも御子および御父のうちにとどまるのです。それがキリストご自身の私たちにお与えになった約束であって、永遠のいのちです。

Iヨハネ 2 : 24-25

私たちは、すでにイエス様を信じたときに永遠のいのちをいただいています。それは決して消えることのない、神様との交わりとの関係です。これは、天国に行くまで続くのです。この永遠のいのちをもっと味わい、もっと豊かにイエス様との関係が深まる道、それが偶像を除き、イエス様だけにとどまり続けるということです。

イエス様は、心の偶像を忌み嫌われますが、私との関係を断つことはありません。「もっとわたしに近づきなさい。もっとわたしと親密な交わりをしよう」と招いてくださるのです。今週、イエス様に満足できないとき、イエス様を喜べないとき、立ち止まって祈り、自分の偶像がどこにあるのか認め、神様にきよめていただくことを覚えて歩みたいと思います。

最後に暗証聖句をしましょう。

愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。

愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。

神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。

私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

Iヨハネ 4 : 7-10